



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アレッポでの戦闘（8月5日）

（各種報道のまとめ）

主席研究員 中島 勇

シリア政府軍による、アレッポ市内の反体制派に対する攻撃は7月28日から本格化した。市内での戦闘は、8月5日（9日目）も継続している。シリア軍は郊外に兵力を配置し、大規模な攻撃を開始する準備をしているが、まだ大掛かりな掃討作戦を開始していない。シリア軍は約2万人、アレッポ市内の反体制勢力は、6000人から8000人との推定情報がある。

アレッポ市内では、政府軍と反体制派が勢力範囲を拡大しようと、市街戦を行っている模様であるが、詳細は不明である。政府軍は、戦車、ヘリ、航空機などを投入している。シリア軍側も反体制派側も、アレッポでの戦闘は長期化すると見ているようだ。軍事専門家らは、アレッポでの戦いが今後のシリア情勢を決めると見ている。

懸念されるのは、約200万人を超えるアレッポ市民の動向が、よくわからない点である。国連は、約20万人が退避したとしている。8月1日の報道では、WFPはアレッポに2万8000人分の食料支援を準備している。国連は、これまでシリアで54万1575人への食料支援をしたが、さらに85万人が支援を必要としているとした。UNHCRは、7月31日時点で、アレッポ大学に市民約7000人が避難し、32の学校にもそれぞれ250人から300人が避難し、アレッポ中心部で計1万5000～1万8200人が避難しているとしている。これらの推定数字をあわせても、アレッポ市民の一部にすぎない。

外交面では、8月2日、アナン・国連・アラブ連盟共同特使が辞任した。シリア問題で調停役を担う人物はもういない。3日、国連総会は、シリア非難決議を採択したが、象徴的な意味以上はない。アレッポでの戦いを止めるための外交的な仕組は機能していない。